

平成25年度 研修報告書 第40号

これからの成人・高齢者教育を考える

～ 地域活動と学習に関する意識調査 ～



【大河原地区社会教育主事研究協議会】

発刊を祝して

宮城県大河原教育事務所 所長 桂島 晃

日ごろ、管内において社会教育の振興と充実・発展にご尽力なされている大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。また、貴研究協議会の研修の一環といたしまして「これからの成人・高齢者教育を考える ～地域活動と学習に関する意識調査～」というテーマで研究を推進してこられ、このたび第40号の研修報告書が発刊される運びとなりましたことに対し、心からお祝い申し上げます。

さて、現在の社会情勢は変化が激しく、将来の見通しがなかなか予測できない時代を迎えております。このことから成人・高齢者教育には、単なる個人的関心や興味を充足させるための学習のみならず、社会の変化に対応するための学習や社会とのつながりを重視した学習機会を提供していくことが必要とされております。自らの行動や意識を変えていくことによって課題を解決していき、よりよい社会を形成していくという態度や技術を身につけることが求められてきております。一方で、人間関係の希薄化など、地域の教育力低下が問題となっておりますので、人づくりや地域社会づくりの拠点施設として、公民館等における社会教育施設の果たす役割はますます重要になってきております。例えば、東日本大震災や台風による風水害など自然災害が各地で多発しましたが、それまでに培った地域住民の人間関係や、避難場所での生活やボランティア活動などで生まれた新しい人々の出会いやふれあいは、お互いを支え、助け合いながら新しい地域社会づくりへと向かうエネルギーになりました。このように社会教育施設は地域住民のコミュニティづくりの上で、とても重要な役割を担っております。

このような今日的な現状と課題を踏まえ、地域課題を整理し、地域の問題は地域のみんなで考えるといった地道な活動に取り組むことが、地域の人々の結びつきを強め、さらには地域の元気や活力を引き出すことになり得るものと思われまます。

管内では、昨年度から全市町で協働教育に取り組んでいただいております。経験豊かで様々な技術を身につけ、互いに結びついている「地域の大人」が、学校を含めた地域社会の教育力として必要不可欠な存在であることは推して知るべしです。そうした意味におきましても成人・高齢者教育を充実させることが今後さらに求められていくことでしょう。

今回の研究は2カ年計画と伺っております。管内の成人・高齢者教育の現状を詳しく分析した今年度の研究成果に基づき、来年度は管内の成人・高齢者教育の振興と公民館事業活性化、ひいては地域づくりのために、よりよい提言がなされることと期待しております。

結びに、本書を発行されるにあたり、多くのご努力を払われました研修委員の皆様、そして貴協議会及び会員の皆様を支えていただいている管内教育委員会の皆様に対し、心から感謝を申し上げますとともに、管内の生涯学習の振興と貴協議会の一層の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

研修テーマと経過

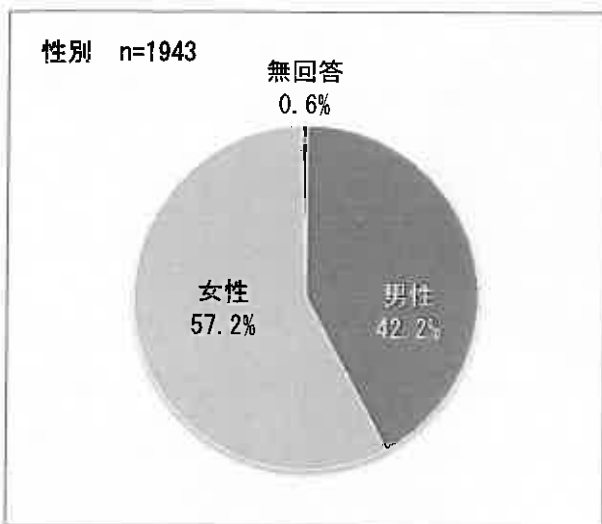
研修テーマ設定の背景

アンケート調査の概要と結果

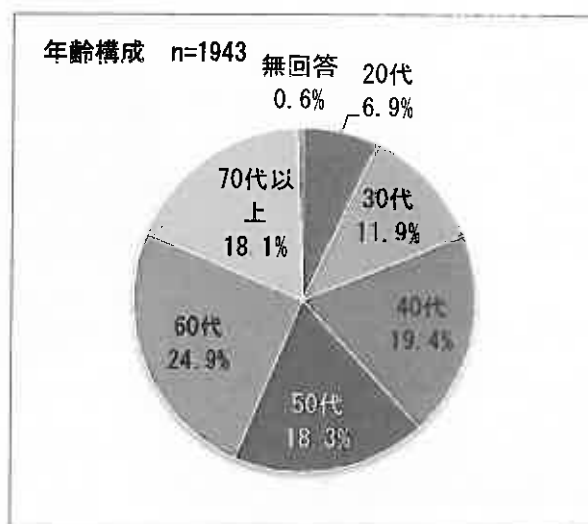
2 調査の結果

【問1】最初に、あなた自身のことについておたずねします。

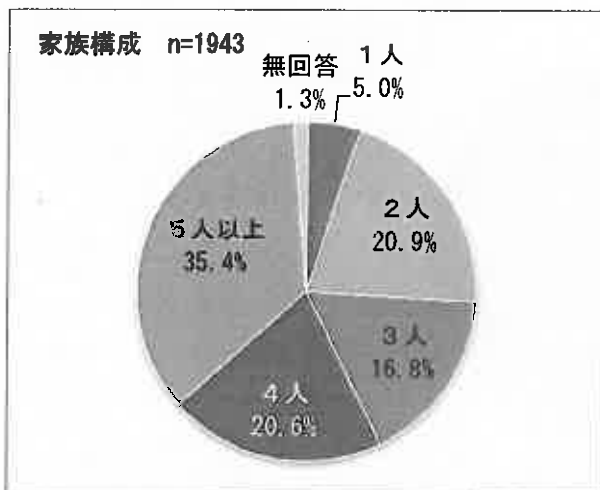
Q1. 性別について



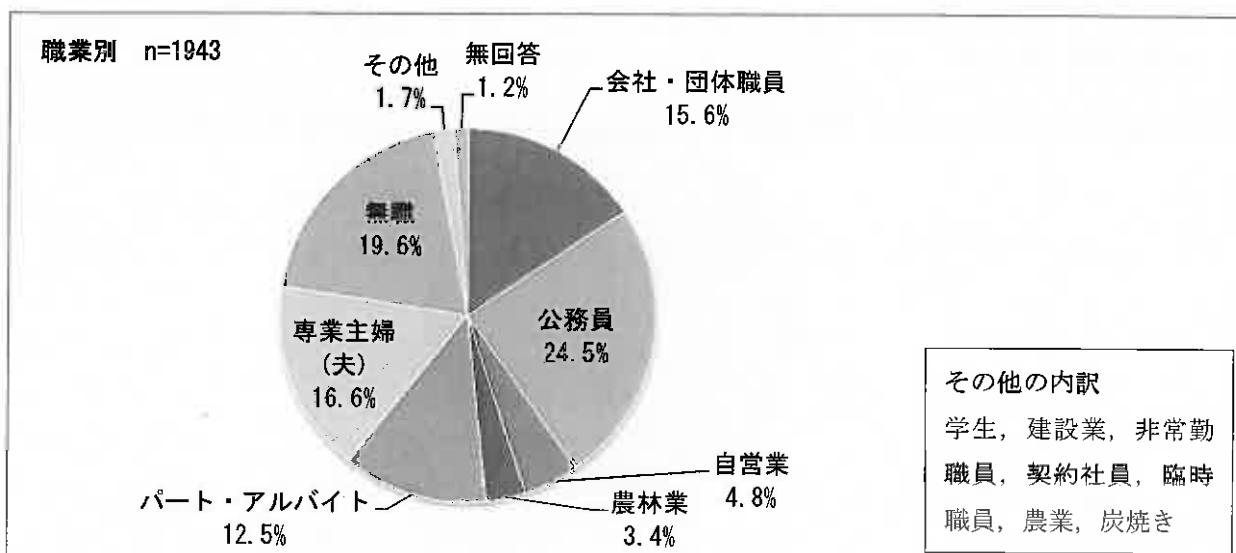
Q2. 年齢について



Q3. 家族構成について

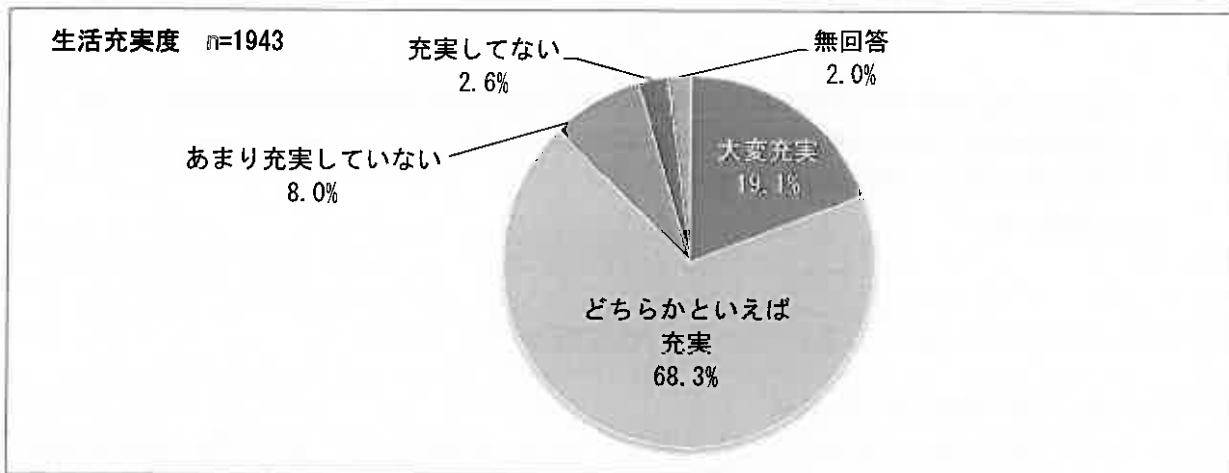


Q4. 職業について

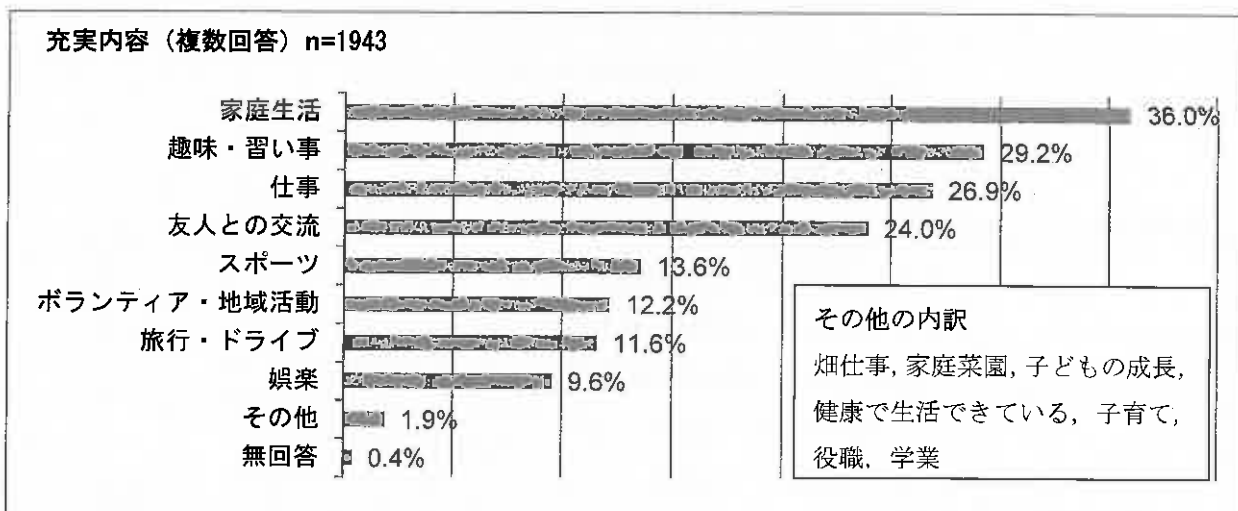


【問2】あなたの生活状況についておたずねします。

Q1. あなたは生活が充実していると思いますか。



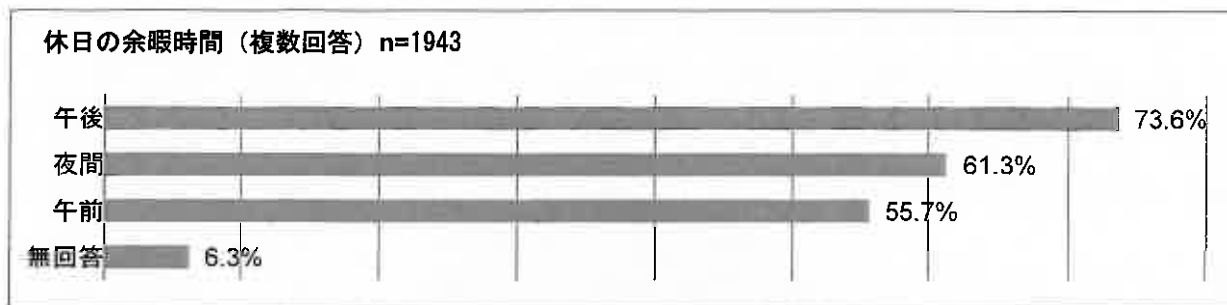
Q2. 生活が充実していると感じる理由について（複数回答可2つ以内）



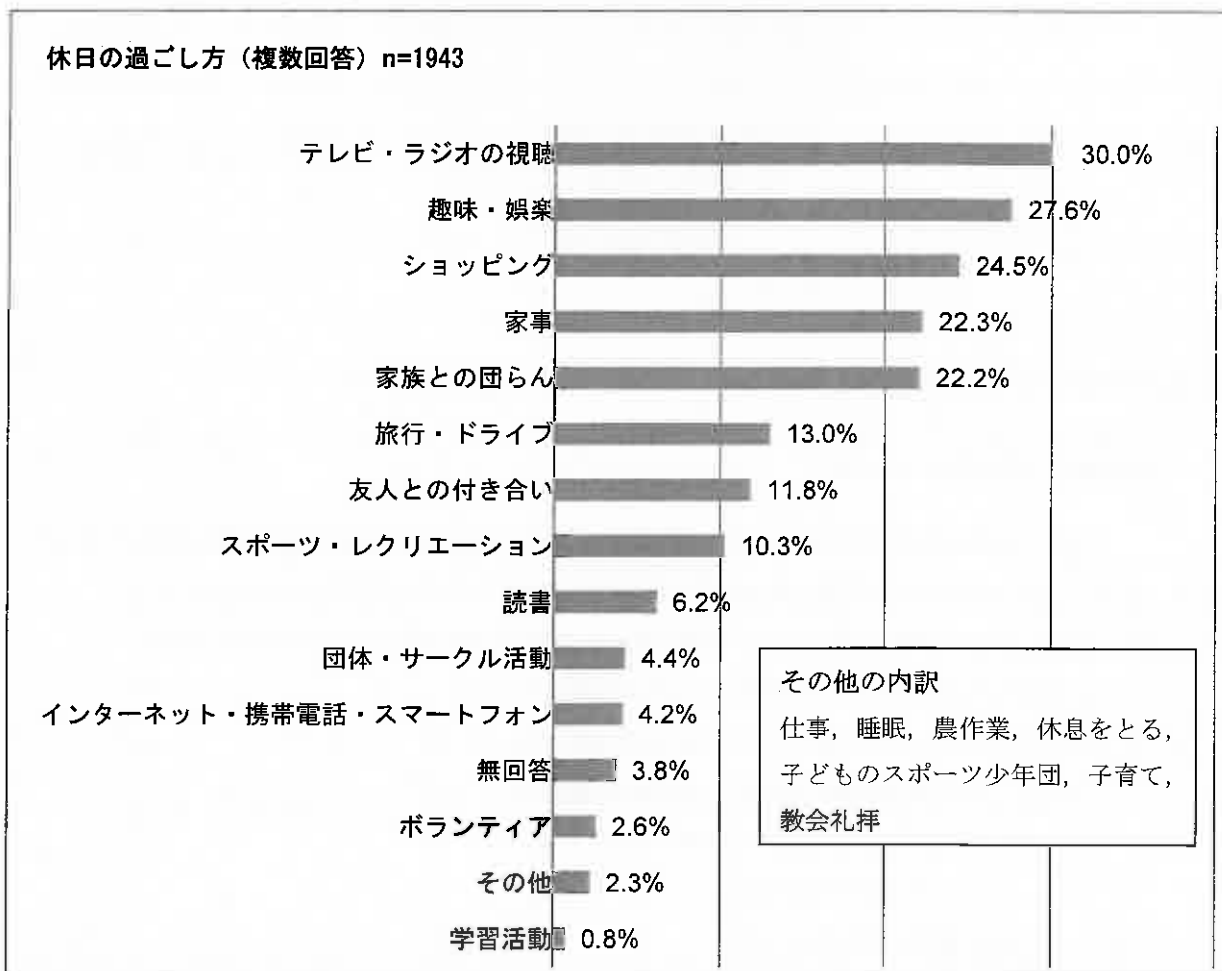
Q3. 生活が充実していないと感じる理由について（自由記述）

- ◆時間的・経済的・身体的制約
仕事と家事が忙しく余暇を楽しむ時間がない, 経済的に不安定, 体調が悪い, 心身不調, 物事が計画どおり進んでいない, 生活パターンが不規則
- ◆環境
夫の親と同居なので束縛される, 姑の介護が大変, 子どもと遊びに行くところがあまりなく日曜日は家にいることが多い, 働く意欲があっても年齢に見合った働く場所が少ない
- ◆意欲
なんとなく一日が過ぎていく, 人生の目標が見当たらない, 生きがいを感じられない, これといった趣味がない, 頑張っていない気がする
- ◆その他
友だちがいない, 相談できる人がいない, 地域活動に参加してみたいと思っているが身近な所に何かあるのかわからない, 今年退職し時間の過ごし方がまだわからない, 家にばかりいるから充実した生活のイメージがわからないので充実しているかどうかともわからない, 震災を経験したため, 仕事にストレスを感じる。

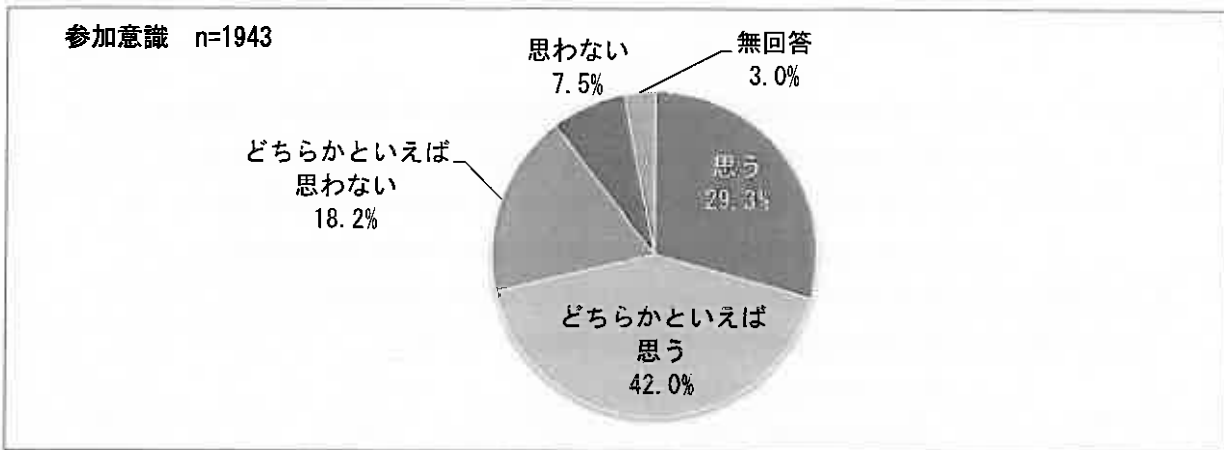
Q6. 休日の余暇時間帯について (複数回答可)



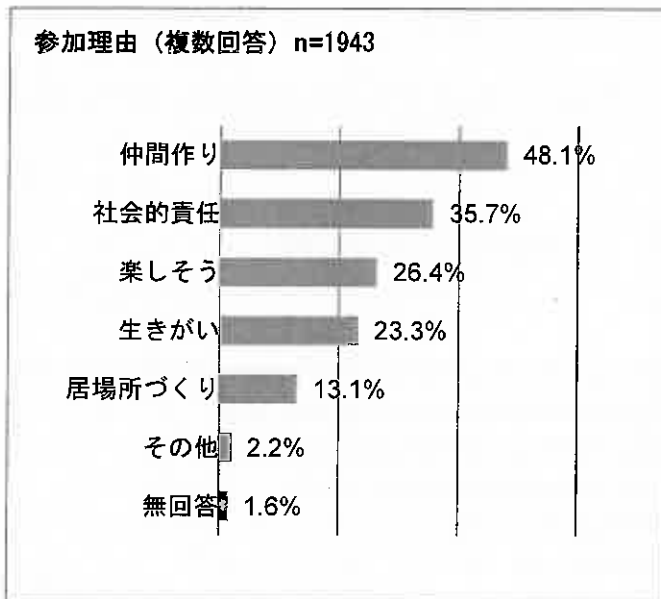
Q7. 休日の余暇時間の過ごし方について (複数回答可 2つ以内)



Q3. あなたは地域活動に参加したいと思いますか。

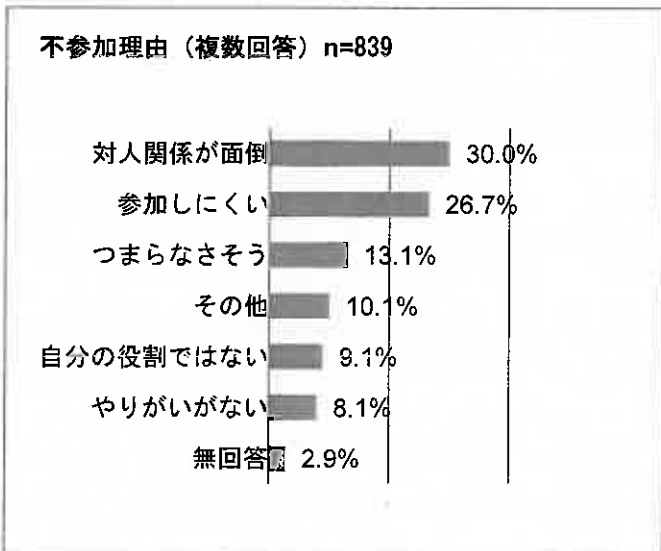


Q4. 地域活動へ参加したい理由について (複数回答可)



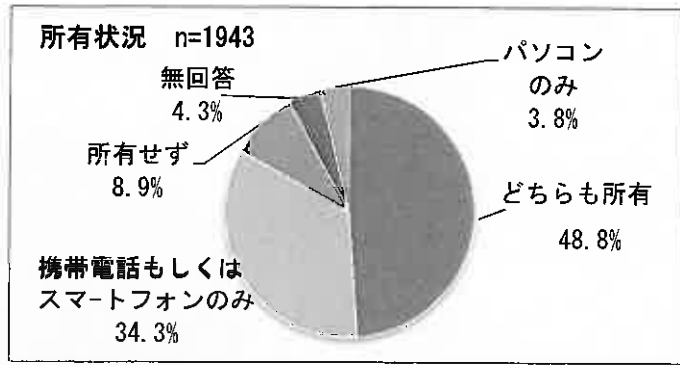
その他の内訳
町の活性化のため、責任とまでは思わないが地域を良くしたいから、誘われて、自分の健康のため好きな物だったらやりたい、外に出たい、近所付き合い、趣味・教養の向上、親子のつながり、何事も勉強になる、近所の人を把握しておくこと、お世話になっていることへの感謝、自分の子どもの教育のため地域・趣味等の情報交換

Q5. 地域活動の参加したくない理由について (複数回答可)

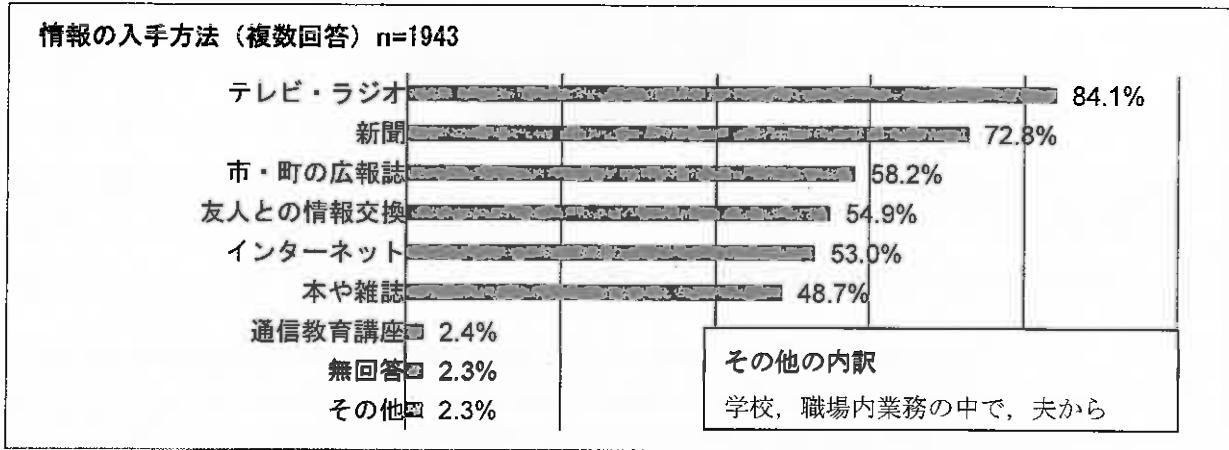


その他の内訳
仕事と家事で体力も気力も余裕が無い、その時間を家族と自分の時間に使う、色々な団体に加入しているため休みがない、仕事で関わるので休日まで顔を合わせたくない、時間的に難しい、周りに知り合いがいない、気が向かない、地域活動もとなると余暇の時間が取れなくなりそうだから、余裕がない忙しい、ゆとりがない、車の運転をしないため移動手段が無い、体が不自由、役割が多すぎる、他のことに時間を使いたい

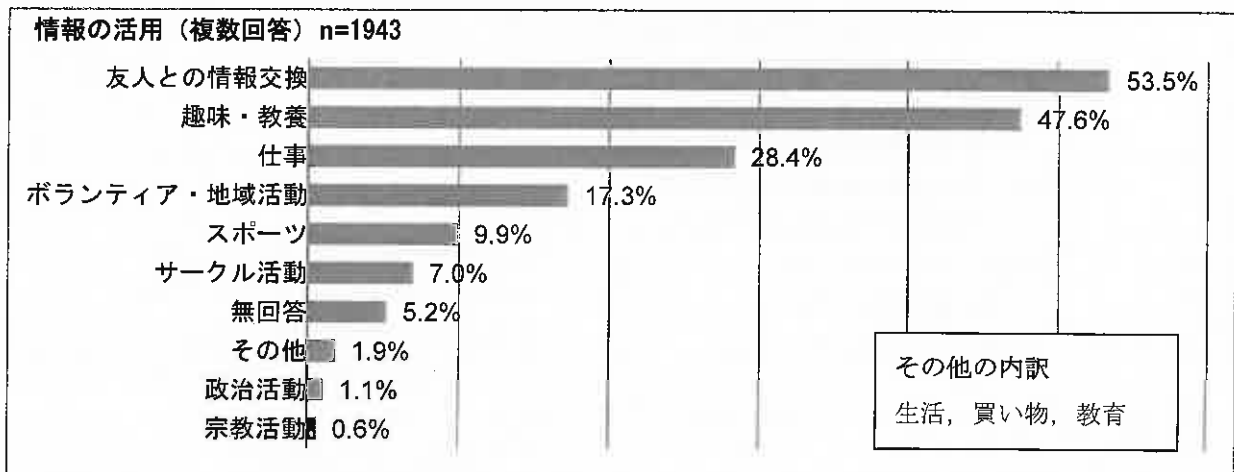
【問 4】 あなたの情報の活用について
 Q1. 携帯電話・スマートフォン・
 パソコンの所有について



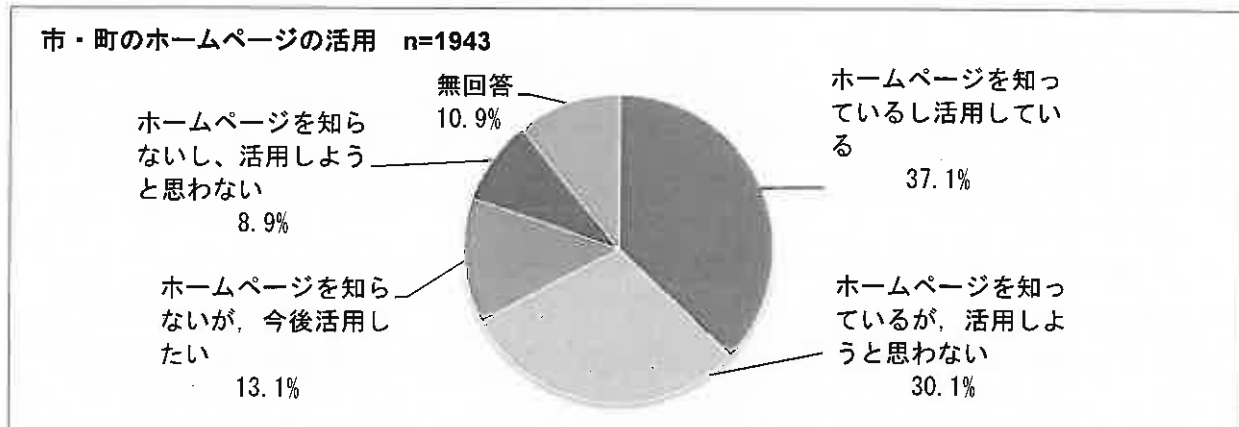
Q2. 知りたい情報の入手方法について (複数回答可)



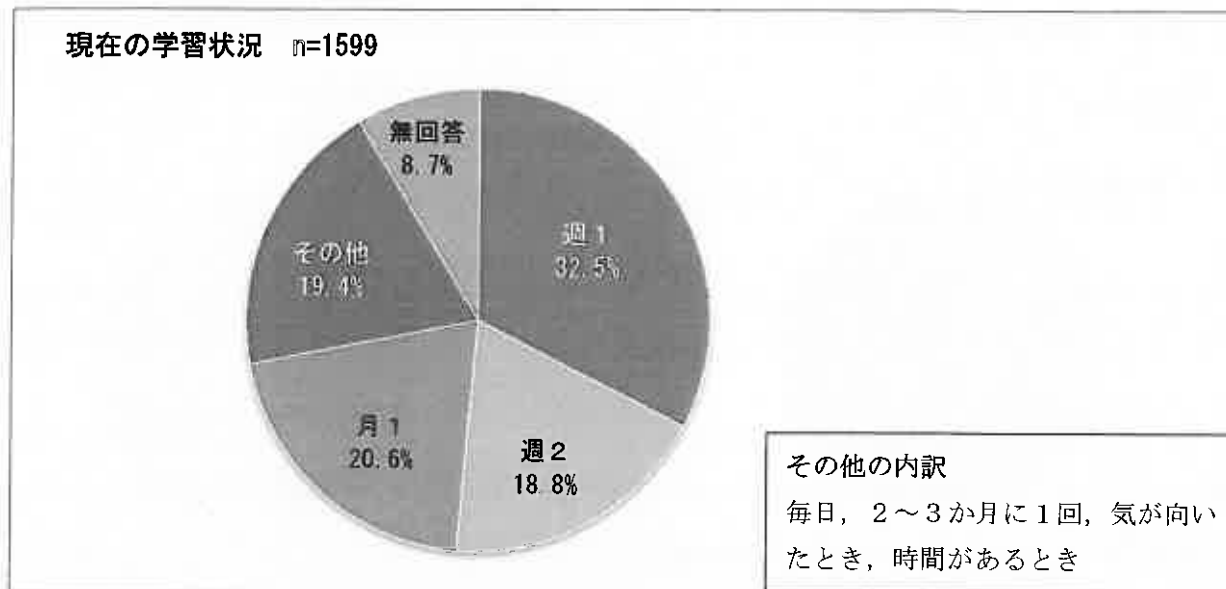
Q3. 情報の活用について (複数回答可)



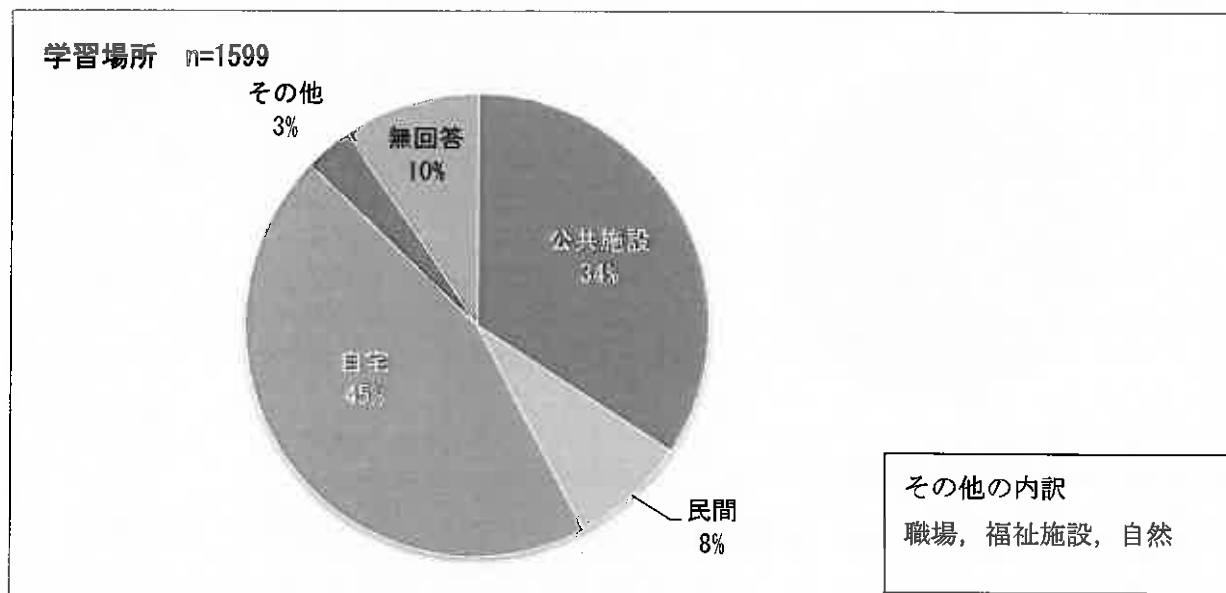
Q4. 市・町のホームページの活用について



Q4. 現在の学習状況



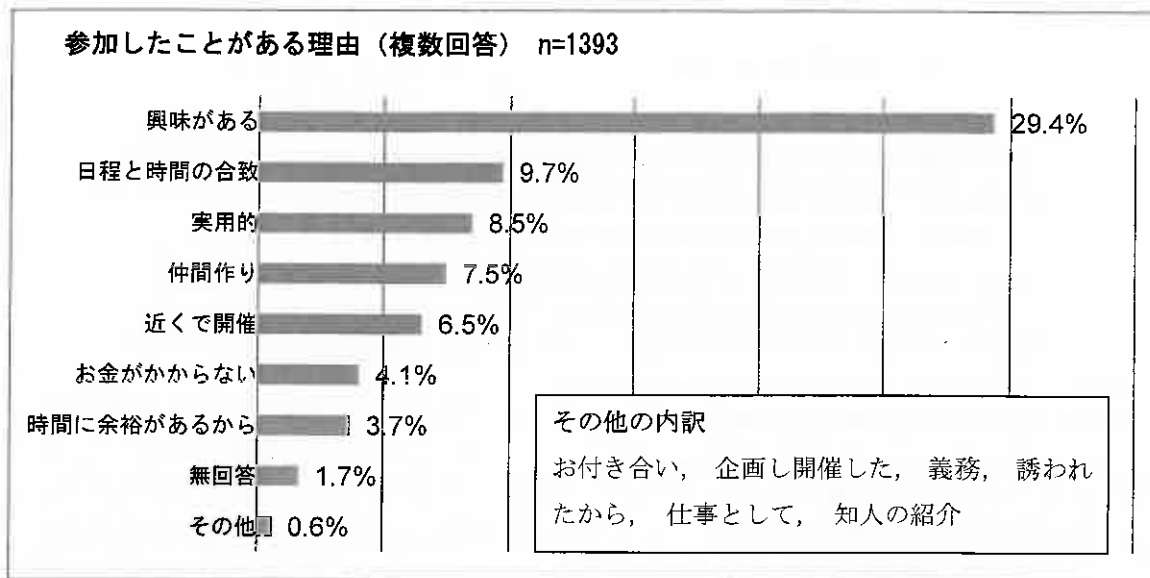
Q5. 学習場所について



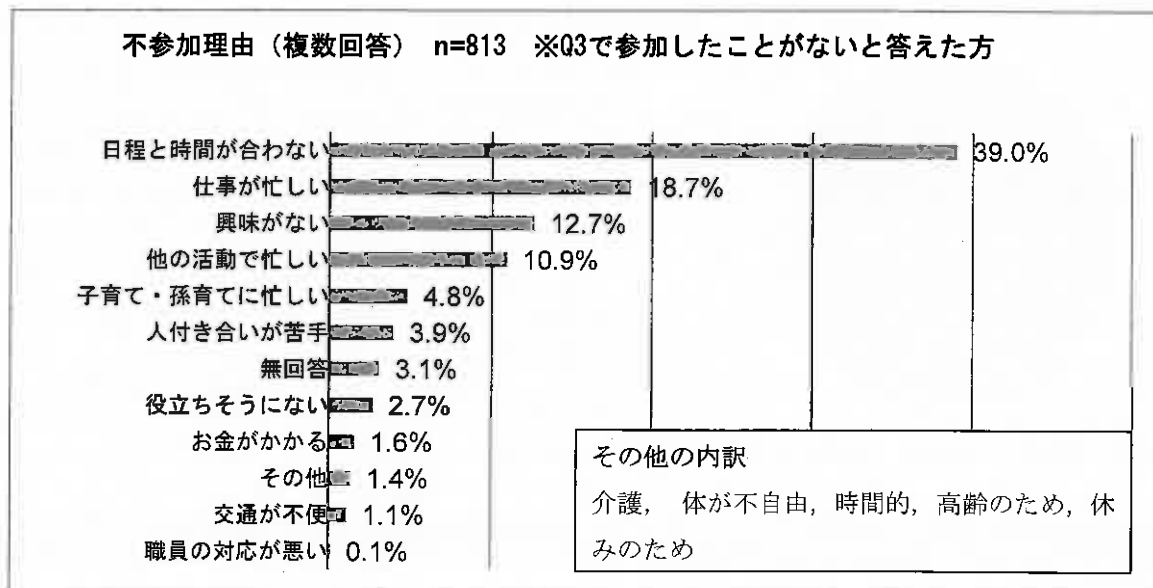
Q6. 学習場所を利用している理由（自由に記述してください）

- ◆場所
集まりやすいから、自宅から近いから、講座で指定された場所だから、自宅が一番集中できるから、出不精だから、自由な時間にできるから
- ◆人間関係
仲間と集まれるから、仲間づくりのため、大勢で参加できるから、独学で勉強したいから
- ◆施設
安価に利用できるから、設備が整っているから、落ち着くから、気兼ねなく利用できるから、まわりに迷惑がかからないから、自宅だとお金がかからないから

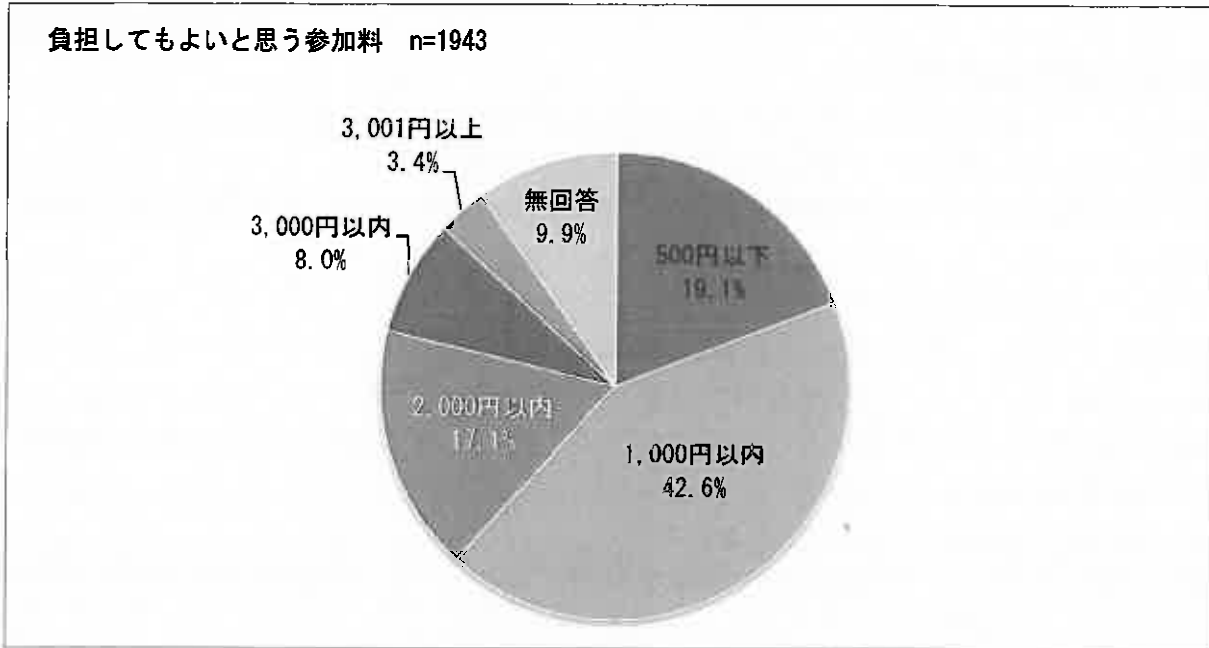
Q5. 参加したことがある理由について (複数回答可2つ以内)



Q6. 参加したことがない理由について (複数回答可2つ以内)

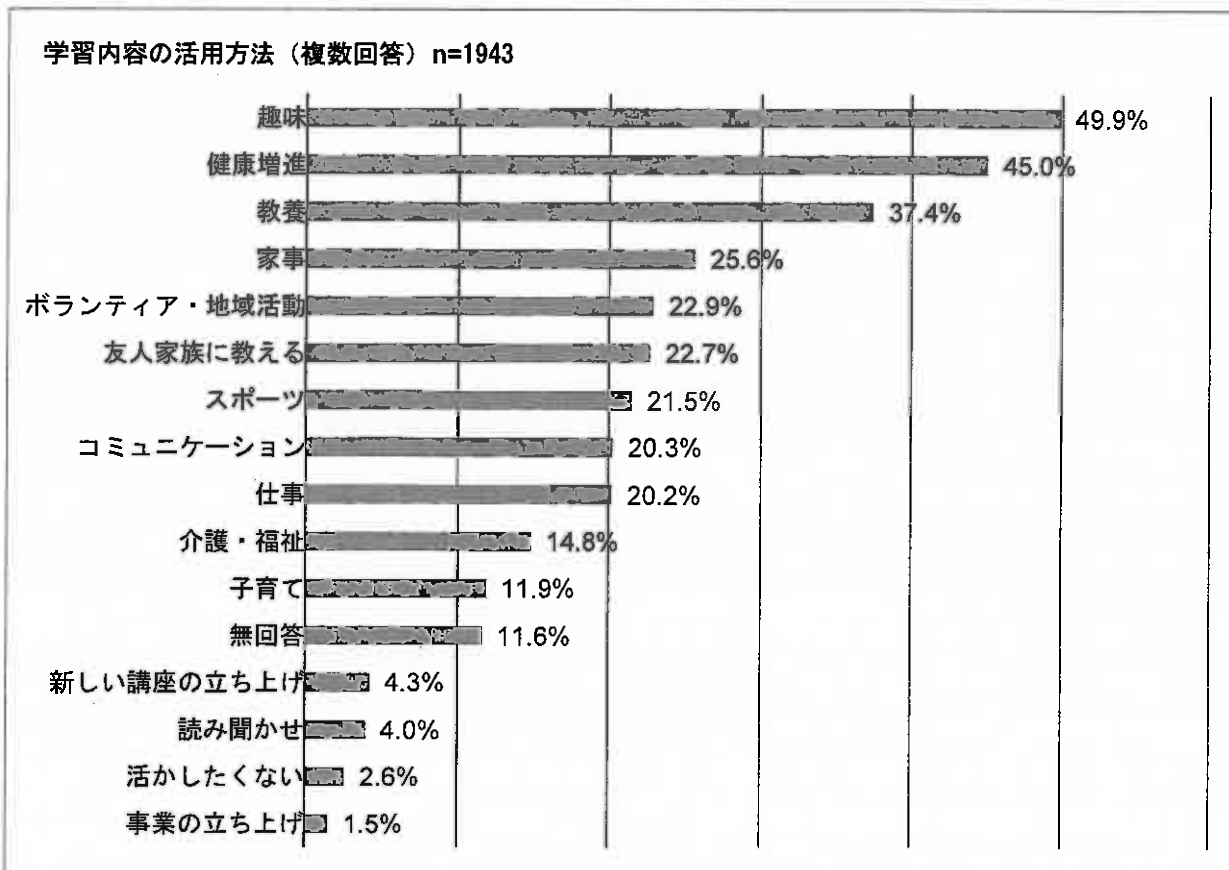


Q4. 事業（講座）に負担してもよいと思う参加料（1講座）について



Q5. 学習内容の活用方法について（複数回答可）

【事業（講座）で学習したことをどのようなことに活かしたいと思いますか。】



- 講師を選定するときに、ただ有名であるという理由では誰も寄り付かない世の中になっていることを念頭に置いてほしい。タレント性ばかり考えるように思いますし、若い方の考えを取り入れてほしいと思います。

◆講座の内容（中身）について

- 現在週1回6回コースの歌おう会に参加。夜6：30～8：00まで、参加費無料で発表会がその後行われて終了となるが、歌を歌うことが苦手な自分だが、ボイストレーニングをしてもらえてとても気楽で楽しい時間となっている。続行希望の声もあるとか。経済的負担がないのがいいと思う。
- 事業の内容が子育てに関する時はもちろんだが、家庭教育に関する講演会や趣味・料理等、女性対象のものだったら、託児を考えてもらおうと嬉しい。子どもがぐずったりすると、せっかくの講演もきちんと聞けなくなるし、少しでも自分の時間が欲しいこともあるので、興味のある講座等は参加してみたいと思うが、小さい子どもがいては迷惑をかける等の思いが結局あきらめることになってしまう。
【同意見1】
- 老人でも参加して生き活きた日々を送りたいので、参加しやすい内容を考えてほしい。
- 一人一人自分の楽しみや癒しの場として来ているので周りに迷惑のかける人がいないような場所にしてほしい。最低限のルールを決めて欲しい（例：携帯電話のマナー）
- 内容によっては年齢制限があり参加できないものもあった。
- いままで様々な事業を展開・開催してきているので、すでに飽和状態のような気がします。学校単位でも活動が多く、塾や習い事なども多様化しており、新たに事業を見出すことが難しいと思う。家族単位で出来るものが良いかなと思います。
- 高齢になると病院に通う事が多く、この様な企画があれば通院する方も少なくなっているように思う。健康体操は良い内容ではありますが、高齢なので座ったままの動きだと腰痛になり、苦痛になり後半は疲れてしまいます。座ったままの運動と半分立って動く体操もあることを願います。
- 高齢者としては健康管理講座が一番だと思う。
- 金ヶ瀬公民館で月1回実施している叙情歌の講座を中央公民館でも実施してほしい。語学（英会話 etc）の講座があればいい。
- 今井先生の体操は今後もやってほしい。
- 子育てに関係するものや子連れで参加出来るものがあるといい。
- マンネリ化している。同じような講座が多い。 【同意見4】
- きっかけづくり（入口）としての参加しやすい内容が良いと思います。
- 事業内容によっては地域コミュニティの場になることも想定され、今後大切なことだと思います。
- 親子の事業参加が少ない。学校の生涯学習の理解や協働が不足。学校とより密接な協力体制作りが必要。補助事業がなくなると継続しないケースが多い。
- 季節に合わせた講座は毎年恒例のように開講されていると、受講を逃しても来年計画できる。新しいものとバランスをとって多様なものを。
- 「輝いてみま専科」に参加しています。今年はこの楽しみもあり、続けてほしいです。出来れば開催日を多くしてほしい。
- 生涯学習というネーミングからして、敷居が高く感じてしまう。講座の開催場所が公民館など、私の年代からはなじみの薄い施設である。年代の限定されてしまう講座が多い。高齢者向けに感じる。
- 一つの講座の学習時間を短くして多くの講座を受講できるようにしてほしい。

- 宣伝を頑張ってほしい。やりたいものがあったても、タイミングを逃したり、知らないまま終わってしまうのは残念なので・・・
- 子育て講座があるときはポスター等で目に見える情報を各町村の支援センターや人の集まるところにほしいです。楽しいことにはみんな集まってきます。
- 地域の情報など（広報誌）が入ってこないのでは全くわからないので困る。
- ありきたりな講座では人は集まらない。興味を引くものや、個人でやるには億劫だが講座に参加すればやりやすいもの。また、他の講座では参加できない時間帯での開催など。
- 各世代に興味のある事業を企画し様々な形で工夫をして募集してほしい。
- 丸森町は歴史的にいろいろあるのに、アピールが足りない。
- どのような講座が開催されているか定期的にパンフレットが欲しいです。
- 事業がどういったものでどんな講座があるかわからないが、現在通信教育を受講しているのでこの講座に参加するのは困難だが、今後のために周知を徹底してほしい。

◆意欲はあるが、参加できない／しない理由について

- 理想とする講座がない。製菓教室があれば参加したい。
- 現在は夜間の仕事（夜勤・週5日位）をしており、また地区内の役職もあってなかなか参加できない状況ですが、仕事をやめたら種々の事業に挑戦してみたい。例えば現在も行っている健康づくりのためのウォーキングなど。新たに温泉宿泊まりで1泊2日の学習講座（もの作り）みたいなものができればと思います。
- 講座はぜひとも参加したいです。しかし、現在は活動内容が多く残念ながら参加できません。参加できるようになったら意見等を出せるようになれると思います。
- 深く考えるとなるとどちらか迷うことがある・・・。いろいろ参加したいが日程がぶつかって難しい
- 今は子育て中（子どもが中心）なので時間に余裕がない。時間が出てきたら参加したい。[同意見4]
- ニーズに合っていないかったり、時代遅れの感じがするのがもったいないと思うときがある。やりたい講座があっても平日の日中なので残念。子ども向けの丸森町の歴史をやってほしい。歴史に関わらず、丸森町についての様々なことを親と一緒に学べるような講座。
- 家庭の事情でなかなか事業に参加できる状況ではありませんが、時間的な余裕があれば参加したい。また、興味があるような事業であれば自然に参加すると思います。[同意見7]
- 1, 2回なら参加できる。ほかの活動とかち合うことが多い。
- どの講座においても参加する人のレベル（体力・知識力が対応力）の差が分からず、その不安から参加に対して二の足を踏むこともある。
- 資格の取れる講座だったら進んで参加したい。
- 参加料が無料だと参加しやすいと思います。

◆その他の意見

- 地域の事業行事について、いつまでも同じ事をしている。
- 前にありました水彩画教室をぜひまた開催してください。お願いします。希望者が多いと思います。
- 講座は長く続けてほしいと思います。[同意見2]
- 趣味が多く、なかなか時間的余裕がない。
- リタイア後に考えることになると思う。現段階では述べることは無い。
- 生涯ハリのある生活をおくるため趣味などを増やせる講座。
- できれば講座の数を増やしてほしい[同意見2]
- 年齢に関係なく受けやすい事業にしていきたい。[同意見1]
- シニアで家にこもる方でも気軽に参加したい。出来る講座。
- それぞれ他にも団体活動をしているほうが多いので日時を決めるのが大変である。企画を決めることもなかなか難しいと感じた。
- 講座で学習するには自分の目的に沿って入講～修了まで出席できる内容を選んで受講したい。受講するには開催される時間などもあります。
- 興味を引く事業の開催を今後も期待している。
- 私は70代で年金生活のため健康講座やスポーツ、レクリエーションの進め方等についての講座をお願いしたい。
- 仕事で活かせるような講座があれば、参加してみたいです。

調査様式

「成人・高齢者の地域活動と学習に関する意識調査」ご協力をお願い

○はじめに

より充実した豊かな人生を送る手段として、生涯学習の必要性が盛んに言われるようになりました。大河原管内のこれからの生涯学習推進の資料とするため、大河原管内2市7町にお住まいの市民・町民の方を対象に、アンケート調査を実施いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

○ご記入について

- (1) ご回答の際は、質問項目の中からあなたの現状やお考えにもっとも近いものを選び、その番号を□の中へ記入してください。なお、質問の中には **2つ以上選択** する場合がありますのでご注意ください。
- (2) 質問中、次の問いへの進み方が書いてある場合は、その指示に従ってお進みください。
- (3) ご不明な点がございましたら、〇〇〇教育委員会 〇〇〇〇課 (Tel.〇〇 - 〇〇〇〇) までお問い合わせください。
- (4) アンケートのご記入が済みましたら、**平成25年11月15日(金)**までにご返送ください。

実施機関：大河原地区社会教育主事研究協議会

大河原地区社会教育主事研究協議会は、管内の市町教育委員会生涯学習担当者と構成する研究会です。なお、調査結果は全て統計的に処理します。この調査で収集した情報につきましては、当協議会の研究目的以外で利用いたしません。

ここから質問がはじまります。

【問1】最初に、あなた自身のことについておたずねします。次のQ1～Q8についてあてはまる項目の番号を選んで右の口に番号を記入してください。

Q1. あなたのお住まいについて

1. 白石市 2. 七ヶ宿町 3. 蔵王町 4. 大河原町 5. 柴田町
6. 村田町 7. 川崎町 8. 角田市 9. 丸森町

Q1

Q2. 性別について

1. 男性 2. 女性

Q2

Q3. 年齢について

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

Q3

Q6. 今後参加してみたい地域活動について あてはまるものすべてお答えください。 Q6

- 1. 祭り・芸能祭 2. スポーツ行事 3. 学習会・講座
- 4. PTA 5. 婦人会 6. 母親クラブ
- 7. 老人会 8. サークル等の地域団体
- 9. 防災・交通安全活動
- 10. ボランティア・地域活動
- 11. その他

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

Q7. 地域内であるとよいと思う活動について 2つ以内でお答えください。 Q7

- 1. 運動会 2. お祭り 3. 防災組織 4. 食事会
- 5. 学習会 6. 清掃組織 7. スポーツチーム 8. 炊き出し組織
- 9. 非常時訓練 10. ゴミ集積所管理組織
- 11. 子どもを見守る会
- 12. 高齢者を見守る会
- 13. その他

| |
|--|
| |
| |

【問4】あなたの情報の活用についておたずねします。次のQ1～Q4についてあてはまる項目の番号を選んで右の口に番号を記入してください。

Q1. 携帯電話・スマートフォン・パソコンの所有について

- 1. どちらも所有
- 2. 携帯電話もしくはスマートフォンのみ所有
- 3. パソコンのみ所有
- 4. 所有せず

Q1

| |
|--|
| |
|--|

Q2. 知りたい情報の入手方法について あてはまるものすべてお答えください。 Q2

- 1. テレビ・ラジオ 2. 新聞
- 3. 本や雑誌 4. インターネット（パソコン）
- 5. 友人との情報交換から 6. 通信教育講座
- 7. 市・町の広報紙
- 8. その他

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |

Q4. 事業（講座）に負担してもよいと思う参加料（1講座）について

Q4

- 1. 500 円以下
- 2. 1,000 円以内
- 3. 2,000 円以内
- 4. 3,000 円以内
- 5. 3,001 円以上でも可

| |
|--|
| |
|--|

Q5. 学習内容の活用方法について

【事業（講座）で学習したことをどのようなことに活かしたいと思いますか。】

あてはまるものすべてお答えください。

- 1. 教養
- 2. 健康増進
- 3. 趣味
- 4. 家事
- 5. 仕事
- 6. 子育て・育児
- 7. 介護・福祉
- 8. スポーツ・レクリエーション
- 9. コミュニケーション
- 10. ボランティア・地域活動
- 11. 絵本の読み聞かせ
- 12. 友人や家族に教える
- 13. 事業を立ち上げる
- 14. 新しい講座の企画・運営に関わりたい
- 15. 活かしたいと思わない

Q5

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

Q6. 最後に、事業（講座）についてご意見等ございましたらご自由にお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成25年度大河原地区社会教育主事研究協議会先進地研修視察

- 1 目的 生涯学習の充実が求められる今日、その先進地を視察することにより、管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに、社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。
- 2 期 日 平成25年9月26日(木)
- 3 視察先 (1) 山形県米沢市教育委員会(置賜総合文化センター)
所在地：山形県米沢市金池3丁目1番14号
TEL：0238-21-6111(代)
FAX：0238-21-6926
- (2) 米沢鷹山大学
所在地：山形県米沢市金池3丁目1番14号
置賜総合文化センター1F
TEL：0238-21-6111(代)
FAX：0238-37-8143
- (3) 伝国の杜施設見学
所在地：山形県米沢市丸の内1丁目2番1号
TEL：0238-26-8000
FAX：0238-26-2660
- 4 日程等 8：00 大河原合同庁舎 集合・出発
9：45 山形県米沢市 置賜総合文化センター 到着
10：00 【研修1】置賜総合文化センターについて
置賜総合文化センターの施設の案内
案内：社会教育・体育課 指導管理担当主事 伊藤文昭 氏
【研修2】米沢鷹山大学について
講師：米沢鷹山大学 学長 新谷博司 氏
12：00 昼食・移動
13：15 【研修3】伝国の杜施設見学
15：00 出 発
16：30 大河原合同庁舎 到着・解散
- 5 参加者 大河原地区社会教育主事研究協議会会員等

◆生涯学習事業の役割分担

市で実施する業務は生涯学習全般の振興をはじめ6項目で、米沢鷹山大学が主体で実施する業務は大学の運営（事業の企画・立案、情報の収集・発信、各種機関・組織との連携）をはじめ8項目であり、マナビ通信などを作成・発行し情報を発信している。

市と大学が協働で実施する業務としては、生涯学習拠点としての大学運営を始め5項目としている。

「米沢鷹山大学」は元々、生涯学習を推進する事業の総称で組織の名称ではなかった。

しかし、『「生涯学習社会」の実現』を目指し、平成23年4月1日に市民自主運営組織として「米沢鷹山大学」を設立した。運営の決定権を持ち、行政と役割分担を明確にして運営することで市民の声を反映した市民大学となるよう広報紙にて周知を図った。

米沢鷹山大学は米沢市教育委員会と協働・連携しており、他の市民大学や学習団体とも連携して運営している。

<事前質問による回答>

◆おしよしなカレッジの名前の由来

昔から置賜地域全体で使われている、「ありがとう」という意味の上品な良い言葉。米沢ではごく一般的に使われているため「おしよしなカレッジ」という名前が生まれた。

◆設立の経緯（設立当初から現況、今後の展望、市民参加の下地作り）

・設立当初：市民の生涯学習を支援していく中で米沢鷹山大学が生まれてきた。

・現在の状況：米沢鷹山大学の講座は、現在「企画講座」・「おしよしなカレッジ」の2つに分かれて運営しており、「おしよしなカレッジ」がメインとなる。

・運営委員会の構成：16名（教授会の互選、コミュニティセンター代表、学識経験者、事務局長）で、その半数ずつで企画部会、情報部会に分かれる。

・市民参加：講座の内容については、市民の方が企画し提出したものに対して、運営委員会の中の企画部会で、政治色の強い企画や宗教的なものがないか審査会を開き、協議後開講する。



◆運営方法（母体組織・詳細な組織、予算等々）

平成19年4月に策定した生涯学習振興計画後期基本計画に、運営の決定権を持つ「米沢鷹山大学」の組織化が盛り込まれ準備を進めてきた。平成23年4月に市民運営組織としてスタートし、市から570万円ほど支援を受け、独自収入を含め850万円の予算で運営を行っている。

支出の主な内訳は、年2回発行し全戸配布している講座情報ガイドブックに317万円、運営費に275万円、ボランティア事業・企画講座事業などに38万円となっている。

◆広報（CM）の行い方

ガイドブックを年2回米沢市全戸に配布している。他には市報「広報米沢」にて鷹山大学全体と講座のPRをお願いしている。さらには「マナビ通信」でコミュニティセンターを通じて年5回の全戸配布を行っており、他にも鷹山大学前の掲示板を活用し様々な情報を発信しており、今後もさらに発展させていきたい。

（3）置賜総合文化センターについて

総合文化施設として昭和50年に建設された。

複合文化施設として社会教育等のイベントに多く使われる米沢市中央公民館、青少年の健全育成に資する宿泊研修や、青少年事業の指導員の学習会等で利用できる青年の家、市立図書館、小・中学校の理科授業や科学振興に利用する理科研修センターと併せて視聴覚センターなどが館内に設置されている。2階にある展示室を、東日本大震災による福島からの避難者の為の支援センター「おいで」の事務所として使用している。

<施設案内>

- 1 階：ホール各種イベント、講演会の会場として利用されている。席数が300席（立ち見を含）と小規模のホールだが、主な利用者は、個人の趣味等から発足、活動しているサークル（落語、演劇、吹奏楽等）であり、練習や発表回の規模、人数から最適な場所であるとして、利用率は高い。なお、ホールを含め公民館施設の部屋は営利を目的とした事業・企業の利用は不可。



図書館：一般図書、児童書、歴史書のほか、書庫には、米沢藩、上杉家関係の文書、資料が収蔵されている。

鷹山大学事務局：料理教室の講師も働いており、卒業生が講師になる場合もあるが、人材養成などについて現在模索中である。受付を民間企業に委託している。

- 2階展示室：本来は書道などの展示を行っていたが、東日本大震災以降、避難者支援センター「おいで」の事務所として開設している。



宮城、福島両県の原発避難者、東京電力関係者などが打ち合わせとして来館したり、米沢の土地に慣れない子ども連れの母親が集まり、コミュニケーションをとったりサークルなどを開いたりしている。職員6名のうち4名が福島県浜通りからの避難者であり、米沢市の管轄となっている。

- 3 階：青年の家の施設、音楽室、研修室、宿泊施設（和室）がある。

東日本大震災の際は避難所になり、主に和室が使用されていた。文化センターは市営体育館や武道館とつながっており、震災時避難所として使われていた。

調理室は料理サークルや宿泊者の調理時に使用でき、宿泊研修ができるため浴室も完備されている。



質問5 リピーターはいるのか。

回答 多くいる。問題なのが同じ人ばかりが講座を受けるため新しい人が入りづらい、ということが出てくるので、そういう場合は初級でも初級1、2や上級コースなど新しく入った人達のクラスと、全て足並みがそろそろようにしていったら良いのではないかと考えている。講師にも公募であることを伝えて、新しい人が入りやすいようにする。

質問6 地区館のあり方、職員や講座の持ち方についてはどうなっているのか。

回答 組織の中で社会教育担当と生涯学習担当と2つある。

生涯学習担当ではまちづくり人材養成講座を行っている。各部門での著名人をお呼びして講座を聴講してもらう。その後そういう講座を聞きながら米沢に足りないものを参加者が考え「米沢まちづくりプラン大賞」に申し込んでもらい、最高総額100万円の助成金を渡し、その事業を具現化していくという内容を市で取り組んでいる。

コミュニティセンター関係は17館あり、全て指定管理制度をとっている。

指定管理制度の中にコミュニティセンターの職員の人件費を含め、事業を実施していただいている。社会教育担当の合同の講座を各コミュニティセンターで行っている。講師の選び方、チラシの作り方などをコミュニティセンターの主事に指導しながら一緒に事業展開するなど、要求課題ではなく必要課題の部分を行政が担当している。

ほかにも「まちづくり出前講座」として、危機管理室から町内会の防災組織の組織化ということをお願いしている。かなりの件数が増えてきており、例えば年金の講習会など案件ごとに担当課と町内会が調整して、市の職員が町内に出前に行くといった橋渡しを生涯学習課がしたり、婚活、街コン事業なども行っている。また、緊急雇用対策事業でコミュニティセンターの昆虫館で職員を雇って事業を行っている。いろいろな必要課題を生涯学習担当の方で、家庭教育青少年育成を社会教育担当で、コミュニティセンターの主事と共催で開催しているものもある。最近では、「輝くわがまち創造事業」という企画調整部でやっている地域おこしの講座も社会教育担当で側面支援しているという状況になっている。



質問7 文化センターの受付は夜間もやっているのか。

回答 文化センターの施設管理について、平成22年度から指定管理者制度をとっている。貸館の予約受付に関しては指定管理者の職員を置き、8時30分から17時までは通常業務のスタッフ、17時から22時までは夜間スタッフが行っている。書類の窓口受付は17時までだが、電話での仮予約や空き室などの確認については夜間スタッフが22時まで行っている。

質問8 ホームページの更新のタイミングは？

回答 指定管理者がホームページを作成。

囲気となる。ホバークラフトの原理を利用した能舞台の移動方式は、国内初の試みであり、コンサートホールや劇場としての機能も充実している。

◆米沢市上杉博物館について

「米沢市上杉博物館」には、数千に及ぶ上杉氏ゆかりの貴重な品々や国宝が収蔵されている。展示室は「常設展示室」と「企画展示室」に分かれていて、常設展示室では上杉の歴史と文化を中心とした「江戸時代の置賜・米沢」を主軸に構成された配置となっている。

企画展示室では、置賜の歴史、上杉文化など歴史や美術に関する企画展や、郷土ゆかりの作家や作品を取上げた展示を随時行っている。

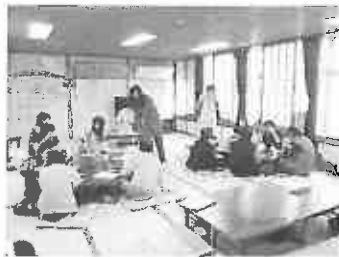


成人・高齢者教育事業の事例紹介

講座名：大人のおしゃれ

ね ら い 地区民のより良い生活向上を目指し、教育と学習の向上を図る。今回の成人講座では「元気な言新き支援事業」をかねて大人のおしゃれ講座を開催した。

| | |
|-------|--|
| 実施回数 | 全1回 |
| 会場 | 横倉自治センター |
| 対象者 | 横倉地区民 |
| 講師 | けやきの会、国保連合会 |
| 主催 | 横倉自治センター |
| 内容 | ◇うつ病についてのミニ講話 ◇尿漏れ予防体操 ◇お化粧品体験（女性） ◇身だしなみ体験（男性） ◇ファッションショーと一人一言 |
| 費用 | 無料 |
| 事業の経過 | ◆角田市社会福祉課と事前打合せ ◆事業当日にケヤキの会、国保連合会、社会福祉課と打合せ |
| 成果と課題 | □男性の方はオーディコロンを使ったのが初めての事で、バンダナをしておしゃれをした後は、皆いきいきしていた。 女性の方も化粧やスカーフをつけて「きれい」だとほめられとても嬉しそうだった。 □参加者は自信がついたようだった。 |
| 活動の様子 | ■一人一言のインタビューのときは、全員笑顔だった。 ■男性も女性も互いにほめ合っていた。 ■「参加して良かった（よかった）」と喜んでいた。 |



【 村田町 】

講座名：村田町歴史講座～どのようにして『町』が生まれたの？～

「山崎と山形を結ぶ幹線のが枝点として、商都の賑わいをみせた『村田』。その長い歴史を語るように、当時の栄華を伝える貴重な蔵が、今もこの町に残っている。本講座は、村田町の歴史や文化を学び、それらを後世に伝えていくことの大切さを考える。

| | |
|-------|--|
| 実施回数 | 全4回 |
| 会場 | 村田町中央公民館, 村田町歴史みらい館, 村田商人やましょう記念館, 蔵の町並み |
| 対象者 | 町内在住・在勤の方 |
| 講師 | 歴史みらい館長, 村田町文化財保護委員, 村田再発見「蔵」の会 村田町教育委員会文化財専門委員 |
| 主催 | 村田町教育委員会 |
| 内容 | 【第1回】 村田城（館）と村田の町並み 【第2回】 村田商人の生活 【第3回】 商家町と周辺の文化 【第4回】 商都村田の伝統的建造物 |
| 費用 | 無料 |
| 事業の経過 | ◆事業実施に至る経緯 教育委員会生涯学習課と歴史みらい館職員との合同打ち合わせ ◆事前準備 教育委員会生涯学習課伝統的まちなみ推進室職員, 歴史みらい館長, 蔵の会との打ち合わせを行い文化財保護委員, 文化財専門委員と詳細について打ち合わせ。町の観光協会とも連携。 |
| 成果と課題 | 【第1回】 歴史みらい館, 旧武家地周辺において、「村田のはしまり」について、町の歴史の概要について学び、村田城（館）跡や旧武家地周辺の見学を行った。 【第2回】 やましょう記念館において、「村田商人による紅花交易」を中心に取り上げ、当時の村田商人の生活や紅花交易が隆盛期を迎えるまでの経緯を学んだ。 【第3回】 蔵の町並み他町内 商家町周辺の文化にふれる。 【第4回】 蔵の町並み 今なお数多く残る商家の建物の魅力と地割や建物の配置、構造、間取について学んだ。 |
| 活動の様子 | <p>■日常見慣れた蔵、町並みでしたが「すばらしさ」に気がつきませんでした。村田の蔵の「うり」に目が止まり感動を覚えました。</p> <p>■小さい時、通ったあの道・この道・大変興味深く当時をなつかしむ事ができて良かったです。先祖のイブキを感じました。大事にしていきたいと思います。</p> |



【 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センター 】

講座名：視聴覚教育メディア研修会

視覚情報技術の進展に伴い、学校教員及び社会教員において教育メディアを適切に、効果的に活用するため、それらについての知識・技能の向上を図る。

| | |
|-------|--|
| 実施回数 | 全2回 |
| 会場 | 仙南地域広域行政事務組合3階講堂 |
| 対象者 | 圏域内在住者または勤務者 |
| 講師 | 外部講師、視聴覚教材センター職員 |
| 主催 | 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センター |
| 内容 | <p>◇デジタルカメラの操作と利用 (8/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラの撮影方法および撮影テクニック ・デジタルカメラで撮影 デジタル写真データの加工、スチール写真からストーリーを作成 <p>◇ビデオ編集 (ノンリニア編集) (8/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルビデオカメラの使い方と撮影方法 ・デジタルビデオカメラで屋外撮影 ・自分で撮ったビデオ映像をパソコンで編集して作品づくり |
| 費用 | 無料 |
| 事業の経過 | <p>◆事前準備</p> <p>視聴覚教材センターでテキストを作成。</p> <p>外部講師と詳細に打ち合わせ</p> <p>パソコン、ビデオカメラの準備</p> |
| 成果と課題 | <p>□盛果</p> <p>利用者からは喜びの声が届いている。定年退職後の受講者も多く、生きがいつくりになっている。</p> <p>□課題</p> <p>周知方法</p> <p>自作視聴覚教材作成への興味・関心の向上</p> |
| 活動の様子 | <p>■独学でやってみたがうまくいかず、今回参加してできるようになった。</p> <p>■上手くできたので、孫に見せたい。</p> <p>■覚えることがたくさんあって大変だけれど、これから自分でも頑張っていきたい。</p> <p>■はじめてだったけれど、楽しかった。</p> |



成人・高齢者教育事業の事例紹介

高齢者教育

【 蔵王町 】


講座名：家系図の作り方講座～自分のルーツを訪ねて～

| | |
|-------|--|
| 趣 意 | 地域と密接な関わりがある古字や戸籍から家系図を作り、自分の祖先を探る。 家系図作りをとおして参加者同士の交流を図る。 |
| 実施回数 | 全3回 |
| 会場 | 蔵王町ふるさと文化会館 |
| 対象者 | おおむね60歳以上の方 |
| 講師 | ヒューマン・サポート・カキョウ 鹿郷健二氏 |
| 主催 | 蔵王町公民館 |
| 内容 | 【第1回】 「家系図とは何か?～家系図の作り方の基本～」 【第2回】 「家系図を書いてみよう！」 【第3回】 「家系図の作り方のまとめ」 |
| 費用 | 各回500円 |
| 事業の経過 | ◆事業実施に至る経緯 高齢者向け講座の講師を数多く経験されている鹿郷氏に依頼。蔵王町は古くから続く家系も多いので、家系図作成講座が町民の興味をひくのではないかという考えのもと、開催を決定。 ◆事前準備 講師との講座の流れについて等、事前打ち合わせ。 事前打ち合わせの際、講師より資料をいただき、受講者分を準備。 |
| 成果と課題 | □家系図の作成に必要な基本知識（必要書類の手に入れ方、先祖の遡り方など）を学ぶことができた。 □高齢の参加者が大半だったが、講師が高齢者を対象にした講義を数多く経験しているため、歴史や暦の話題も盛り込み、全体を通して集中を切れさせない講座になっていた。 □作成した家系図を参加者同士が見せ合い、自然に交流をもっている場面が見られた。 □平日の午前中という日程だったが、全3回の講座を通して、受講生の出席率がとても高かった。 |
| 活動の様子 | <p>《受講者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■家系図の作り方がよくわかった。(必要な書類の入手方法がわかった) ■さまざまな家系図のテンプレートを紹介してもらえたのがよかった。 ■暦のお話がおもしろかった。 ■自分の家系だけでなく、配偶者の家系まで遡る方法を教えていただけたので、それぞれの家系図を作ることができた。 ■講座を受講して、家系図を残しておきたいという気持ちが高まった。 |



【 大河原町 】

講座名：高齢者講座「ゆうゆう学園」と課外講座「楽しみ倶楽部」

| | |
|-----------|---|
| 利 益 | 人生は生涯学習であることを基本とし、高齢者講座「ゆうゆう学園」では、生活・歴史・健康などについて楽しみながら学ぶことを目的とし、また課外講座「楽しみ倶楽部」では書道・郷土史・唱歌等の講座を通じ、楽しい時間を共有することを目的としながらシルバーライフの更なる充実を図る。 |
| 実 施 回 数 | ゆうゆう学園（10:00～12:00）：6/25・7/30・8/27・9/24・10/29・11/26（全6回） 楽しみ倶楽部（13:00～15:00）：6/25・7/30・8/27・9/24・10/29（全5回） |
| 会 場 | 大河原町中央公民館 |
| 対 象 者 | 町内在住の60歳以上の方 |
| 講 師 | 宮城県内関係機関及び団体の職員、町内学識経験者等 |
| 主 催 | 大河原町中央公民館 |
| 内 容 | ◇ゆうゆう学園 【第1回】 携帯電話安全教室 【第2回】 消費者トラブル等に遭わないために 【第3回】 自作ライブラリーで観る仙南 【第4回】 介護保険の話 【第5回】 爆笑パワーで若返り大作戦 【第6回】 映画鑑賞会・閉講式 おたのしみ会（カラオケ、唱歌等） ◇楽しみ倶楽部：書道、郷土史、唱歌、パンの花、パソコン |
| 費 用 | 無料 |
| 事 業 の 経 過 | ◆事業内容と講師の決定 ◆講師との打ち合わせ ◆大河原町生涯学習ガイドを全戸配布して、受講生募集 ◆第1回「ゆうゆう学園」「楽しみ倶楽部」開催 ※～11月まで毎月1回開催 |
| 成 果 と 課 題 | <input type="checkbox"/> とても楽しく、有意義な時間が過ごせたと好評だった。 <input type="checkbox"/> 講話等の内容がよかったのか、出席率が高かったようだ。 <input type="checkbox"/> 参加者が毎回同じ顔ぶれなのでもっとPRが必要だ。 |
| 活 動 の 様 子 | ■仲間と一緒に唱歌を大声で歌うのは、健康に良いと思います。 ■毎年、楽しくためになる講座を企画していただきまして、ありがとうございます。 |
| |  |

【 丸森町 】

講座名：丸森町はつらつ学園

| ね ら い | |
|--|---|
| 高齢者の社会活動や生活に資する学習活動の推進を図るため、専門づくりを促める各種講演や実技研修等とおし、健康に生きがいのある生活を営むための基礎となる学習事業を実施する。 | |
| 実施回数 | 全5回 |
| 会場 | 丸森まちづくりセンター（第1回・第2回・第3回・第5回） 石神彫刻工房，国営みちのく杜の湖畔公園，仙台コココーラ（株）蔵王工場（第4回） ※第4回は『はつらつ学園修楽旅行』として移動研修会を実施。 |
| 対象者 | 丸森町に在住するおおむね50歳以上の方で、全5回受講可能な方 |
| 講師 | 【第1回】 モンペ村かぼちゃの会 代表 渡辺 裕子 氏 【第2回】 町内在住 歴史研究家・絵手紙の会 【第3回】 丸森病院内科医長 【第4回】 仙台コココーラ（株）蔵王工場 【第5回】 日本ユニセフ協会宮城県支部 |
| 主催 | 丸森町教育委員会 |
| 内容 | 【第1回】 講義「仙台弁でなんだりかんだり」 【第2回】 自主学习「歴史・文化財コース」「創作コース」のどちらかを受講 【第3回】 講義「寄り添う医療 大震災の経験を通じて」 【第4回】 移動研修「丸森町はつらつ学園修楽旅行」 【第5回】 講義「この世界に生きる子どもたち」／修了式 |
| 費用 | 無料（移動研修のみ2,000円負担） |
| 事業の経過 | ◆事業の経緯 昭和59年から2年間開催した「宮城県民大学高齢者指導者養成講座」，昭和61年から「丸森町高齢者大学」，平成16年より現在の「はつらつ学園」となる。 ◆事前準備 5月に今年度の受講生6名による運営委員会を組織し，事業運営および学習計画についての検討を行なう。第2回目は，実施した事業についての反省会を行なう。 |
| 成果と課題 | □受講生の大半が講座に対する評価が高く，取組む姿勢についても非常に良い。高齢者の方々なので，やはり「健康増進」に関する学習意識が高いため，今後は健康をテーマとしたものを取り入れていきたい。 |
| 活動の様子 | ■毎年楽しみにしている。はつらつ学園で築いた仲間達との繋がりを大切にしたい。 ■楽しく気楽に参加できて，とても良い時間でした。 ■有意義な研修内容のため，今後も続けてほしい。 |



ま と め

今回は、研修委員から、特に「成人・高齢者教育」に関する課題に取り組みたいとの多くの声があり、研究の方向を「成人・高齢者」に定め進めることになった。研究テーマの間口は広く、切り口を定めるにも難しかったが、『地域活動と学習に関する意識調査』を真柱に、『先進地研修視察報告』『成人・高齢者事業の事例紹介』の3本の柱で「成人・高齢者教育」の課題解決に向き合うことになった。

『成人・高齢者の地域活動と学習に関する意識調査』

直接、社会教育的な側面から意識調査を試みるべく、生活満足度、地域活動への参加意識、生涯学習への興味関心、加えて将来も含めた興味関心を探った。

標本数を人口の1%を基本として市町毎に調査回収を行ったところであるが、留置き調査ということもあってか、72%という高い回収率となった。

「人・環境的な課題」、「地域住民の意識的な課題」、「学習内容的な課題」の3つの仮説から概観したところを紹介し調査のまとめとしたい。

まず、生活充実度の調査では、「充実」「どちらかといえば充実」を合わせると9割に迫る回答があった。「家庭生活」「仕事」といった日常生活についての充実が最も高い値を示したところであるが、「趣味・習い事」「スポーツ」「ボランティア・地域活動」といった生涯学習により直接的な項目に充実感を持つとの回答も多く目を引くものがあった。

次に地域活動への参加については、「参加する」が7割となっており、「参加したいと思うか」の設問についても同様の回答傾向が見られた。震災後2年半が経過した時点での調査となったが、「参加してみたい活動」、「地域活動であるとよい活動」のいずれの設問でも、「防災関係」や「高齢者を見守る会」など地域コミュニティを意識した回答も多かった。

学習意欲については、「あり」が85%と非常に高く、「ない」としたものでも、その理由を見ると「時間的な都合」によるところの回答が多くを占め、本質的に「意欲はない」との回答は本当にわずかであった。加えて、「生涯学習の講座等に参加したことがない」と回答した理由でも「時間が合わない」としたものが他を圧倒して第1に挙げられた。

また、興味関心を問う設問では、趣味教養・健康に関するジャンルが上位を占めたところで、自由記述の中にも具体的なヒントをいただいたところである。

個別の調査結果は、掲載のデータをご参照いただきたい。

『先進地研修視察報告』

研修視察は、市民が「生涯学習の機会提供をする側」に主体的に関わる先進事例の研修として置賜総合文化センター、米沢鷹山大学に訪問した。

置賜総合文化センターは、社会教育、社会体育の事務所、中央公民館、ホール、図書館、青年の家に加え、視聴覚教材センターや理科実験室まで備えた文字どおり生涯学習の拠点となる施設。38年前にこの構想を東北の地に具現化したことに感銘を受けた。

お わ り に

今年度の大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会のメンバーは、社会教育主事1年生3名、卵（本年度研修受講）2名、研修委員会初参加3名と極めてフレッシュな顔ぶれが集まった。よく言えばフレッシュ、悪く言えば経験不足そんなメンバーの集まりで、結局、歳の順で私加藤が「社教主事デビュー」の日に、委員長を拝命することになった。

何をどのように考え、どこに向えばいいかの検討をつけられないまま、1回2回と会議を重ねることとなったが、研究協議会長と研修副委員長のお導きをいただきながら、何とか研究紀要の発刊にたどりついたところである。

作業の進捗の都合で、予め計画された委員会の回数では足りず、分担毎に集まって整理をしたことも幾日か。かえって、そのことでお互いのつながりを深め、気持ちを近くしたこともあったのではないだろうか。それこそが、この会の存在意義でもあろうし、財産にもしてほしいものである。

それにつけても、研修委員に存分な力を振るってもらう環境を整えられなかったことは、委員長の不徳のいたすところでただただお詫びを申し上げるばかりである。

今年度は、意見の交換も消化不良といったこともあった。デビュー戦の人が多くみんな手探り、自分の思いをどう表現したらいいか迷っていたかもしれない。2カ年に跨る研究となる。若い人達、もっと語り合おう、思いを述べよう、疑問を口に出そう。ぜひ次年度も同じ顔ぶれで研修委員会に臨みたいものだ。

社会教育主事研究協議会にはじめて加えていただき、さらに研修委員会という実動部隊で仕事もさせていただいた。社会教育に関わる人達のネットワークや裾野の広さ、思慮の深さに触れ学ぶ機会をいただいたことに心から感謝を申し上げる。そして何より、社会教育にかける意気込みの熱さに感動したことをお伝えしおわりにしたい。

平成26年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修委員長 柴田町社会教育主事 加藤 栄一

【大河原地区社会教育主事研究協議会会員】

| | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|------|---|
| 白石市 | ※熊谷祐一 | | | | ☆ 研究協議会長 ◇ 研究協議会副会長 ◎ 研修委員長 ○ 研修副委員長 ※ 研修委員 |
| 角田市 | 齋藤 修 | ※齋藤小百合 | | | |
| 蔵王町 | 日下朝男 | 玉手美絵 | ※金塚直美 | | |
| 七ヶ宿町 | ※小椋政光 | | | | |
| 大河原町 | 八島良隆 | 小野 宏 | ※伊藤敏之 | | |
| 村田町 | ☆鎌田浩孝 | ※島貫智博 | | | |
| 柴田町 | 太齋正幸 | 石上幸弘 | 杉本龍司 | | |
| | 高橋秀之 | ◎※加藤栄一 | 木村正人 | 後藤忠宏 | |
| 川崎町 | ○※富田丈靖 | | | | |
| 丸森町 | ◇齋藤公男 | 伊藤博道 | ※齋藤洋寿 | 根元 亮 | |
| 仙南広域 | 黒澤 良 | ※塚野あい子 | | | |
| 教育事務所 | 齋藤 直 | ※小林正道 | 佐藤文則 | | |

研修委員会のおゆみ【これまでの研修報告書一覧】

| No | 年度 | タイトル | 研修代表者 | | |
|----|------------|---|-------------------|-------------|----------------|
| 1 | S48 | 宮城県における父母教師会活動に関する実態 一調査報告書一 | 県教育部長会編, 社会教育主事担当 | | |
| 2 | S49 | 仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3・4歳児を第一子に持つ母親～ 調査報告書 | 研修班長 | 白石市 白石市 | 太齋 享 伏見 光龍 |
| 3 | S50 | 乳幼児教育の学習内容の研究 ～学習計画立案のために～ | 研修班長 | 白石市 | 伏見 光龍 |
| 4 | S51 | 文化財保護行政をすすめるために | 研修班長 | 丸森町 | 阿部 義郎 |
| 5 | S52 | 生涯教育を推進するために | 研修班長 | 川崎町 | 高山 恵弘 |
| 6 | S53 S54 | 大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ ～住民のこころに灯をともして～ | 研修班長 | 角田市 七ヶ宿町 | 咲間 庄三 根元 邦美 |
| 7 | S55 | 学習プログラムの立案(婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級) | 研修班長 | 七ヶ宿町 | 根元 邦美 |
| 8 | S56 | 青少年及び親の意識 調査報告書 | 研修班長 | 柴田町 | 澁谷 孝之 |
| 9 | S57 | 社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～ | 研修班長 | 角田市 | 齋藤 久 |
| 10 | S58 | 社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～ | 研修班長 | 川崎町 | 大宮 昭 |
| 11 | S59 | 少年教育の充実をめざして ～管内における現状と課題～ | 研修班長 | 白石市 | 佐藤 重仁 |
| 12 | S60 | 青年教育の充実をめざして・I 一青年活動の実態一 | 研修班長 | 丸森町 | 鈴木 悦郎 |
| 13 | S61 | 青年教育の充実をめざして・II 「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書 | 研修班長 | 村田町 | 高橋 徳夫 |
| 14 | S62 | 青年教育の充実をめざして・III 一青年教育事業の進め方を考える一 | 研修班長 | 角田市 | 大友 喜助 |
| 15 | S63 | スポーツ人口の拡大を図る一方策 高齢者向けニュースポーツの開発を通して | 研修班長 | 大河原町 | 佐々木寿信 |
| 16 | H元 | スポーツ人口の拡大を図る一方策II 高齢者向けニュースポーツの普及を通して | 研修班長 | 角田市 | 太田 文夫 |
| 17 | H2 | 大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ 新しい学習社会への架け橋 | 研修委員長 | 丸森町 | 岡崎 勝志 |
| 18 | H3 | 生涯学習の鼓動 青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして | 研修委員長 | 村田町 | 高橋 定光 |
| 19 | H4 | 生涯学習の鼓動part2 成人・少年・婦人教育の充実をめざして | 研修委員長 | 大河原町 | 尾形 彰 |
| 20 | H5 | 学校週5日制と社会教育のあり方 | 研修委員長 | 川崎町 | 小林 志郎 |
| 21 | H6 | 青年教育の充実をめざして・IV 一昭和61年度調査結果との比較・考察を通して一 | 研修委員長 | 蔵王町 | 日下 朝男 |
| 22 | H7 | 生涯学習のまちづくりをめざして 生涯学習推進の現状と課題 | 研修委員長 | 村田町 | 山家 孝弘 |
| 23 | H8 | 生涯学習の課題と展望 学社連携をめざして | 研修委員長 | 白石市 | 小野 輝彦 |
| 24 | H9 | 生涯学習の課題と展望 学社連携から学社融合へ | 研修委員長 | 村田町 | 山家 孝弘 |
| 25 | H10 | 生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざして | 研修委員長 | 蔵王町 | 砂金 毅 |
| 26 | H11 | 生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざしてII ～公民館入門一つどう・まなぶ・つながる～ | 研修委員長 | 大河原町 | 八島 良隆 |
| 27 | H12 | 大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ 新世紀・きえない虹をおいかけて | 研修委員長 | 白石市 | 村上 忠敏 |
| 28 | H13 | 学社融合の課題と展望 総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ | 研修委員長 | 七ヶ宿町 | 伊藤 貴子 |
| 29 | H14 | 学社融合の課題と展望 学校教育と社会教育の協働をめざして | 研修委員長 | 丸森町 | 菊地 浩二 |
| 30 | H15 | 学社融合へのアプローチ 知って得する!文化財・その活用法 | 研修委員長 | 丸森町 | 伊藤 博道 |
| 31 | H16 | ヤング・エボリューション ～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～ | 研修委員長 | 大河原町 | 小野 宏 |
| 32 | H17 | ヤング・エボリューションII ～青年教育の活性化をめざして～ | 研修委員長 | 村田町 | 鎌田 浩孝 |
| 33 | H18 | 動き出した次世代育成支援 ～これからの子育て支援の在り方を考える～ | 研修委員長 | 七ヶ宿町 | 高橋慎太郎 |
| 34 | H19 | 時代を映してきた視聴覚教育 ～使ってみよう自作視聴覚教材～ | 研修委員長 | 角田市 | 八島 利美 |
| 35 | H20 | がんばってます!ジュニア・リーダー ～過去 現在 そして未来へ～ | 研修委員長 | 川崎町 | 村上 透 |
| 36 | H21 | 生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～ | 研修委員長 | 柴田町 | 大川原真一 |
| 37 | H22 | 生涯スポーツの振興をめざして vol. II ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～ | 研修委員長 | 白石市 | 小室 徹彦 |
| 38 | H23 | 大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ ～変わり続ける時代を生きる～ | 研修委員長 | 角田市 | 大内 克典 |
| 39 | H24 | 協働教育推進へのアプローチ ～各市町の実践から見えたもの～ | 研修委員長 | 川崎町 | 富田 丈靖 |
| 40 | H25 | これからの成人・高齢者教育を考える ～地域活動と学習に関する意識調査～ | 研修委員長 | 柴田町 | 加藤 栄一 |